

基本構想





まちづくりの将来像 (未来の景色)



～まちづくりの将来像（未来の景色）に込めた思い～

「13の村を豊かな郷土に」との願いが込められ誕生した十三里(富里)市は、豊富な自然に包まれ、肥沃な農地や自然環境の中で、日本を代表する首都圏近郊の優良な農業地帯として発展してきましたが、本市の発展は成田国際空港の歩みが影響するところも大きく、今後、空港の更なる機能強化を見据え、今を生きる私たちは、生まれ育った「我がまち富里」を受け継ぎ、また次の世代につないでいかなければなりません。

人口減少・少子高齢化社会の到来などに加え、新型コロナウイルス感染症により地域社会が一変した今日、これからの時代は予想もつかないほど様変わりしていきます。この激動の時代に、市民一人ひとりが地域に役割と居場所を持ち、関わり合い、どんなときも支え合える地域づくりが重要となります。

これまでの歩みや先人たちのたゆまぬ努力と日々の積み重ねにより築かれた、豊かで美しい自然に包まれた富里の景色を守り、活力と創造性に満ちあふれた、光り輝く富里の未来の景色をつくるため、新たな取組を一気呵成に推し進めるとともに、常に市民起点(市民側から物事を考える)で発想し、市民一人ひとりが希望と活力を持って、自分らしく輝いて暮らす、10年後の富里の将来像(未来の景色)として「心ひとつに 未来に向かって飛び立つ 躍動のとみさと」を掲げます。





まちづくりのための 人口ビジョン

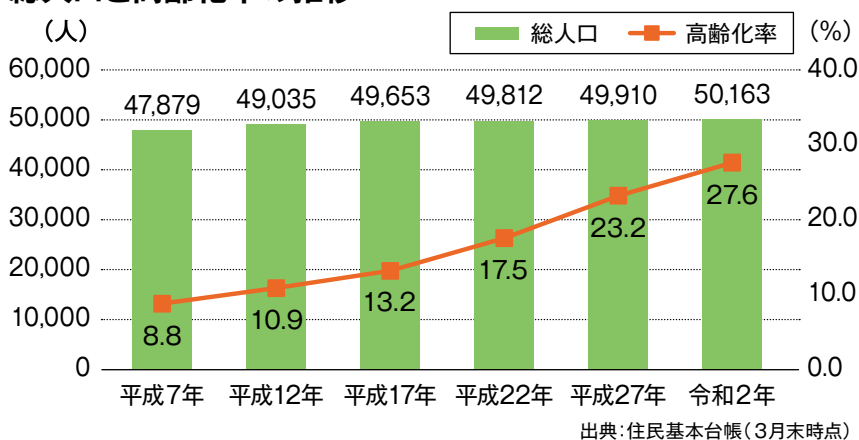


人口ビジョンと現状

富里市人口ビジョンは、本市の持つ地域特性を活かし、「しごと」と「ひと」の好循環を生み出し、「まち」の活性化につなげることを目的に、長期的な人口ビジョンとして策定し、富里市における人口の現状分析を行い、今後目指すべき将来の方向性と人口を示すものです。

住民基本台帳における、近年の本市の人口を見ると、高齢化は着実に進行しており、総人口は微増傾向で推移していますが、平成24年以前は外国人が含まれていないため、実態としてはおおむね5万人前後で推移しているものと考えられます。

総人口と高齢化率の推移



人口推計の考え方

本計画では、住民基本台帳に基づき、次の2つのケースにおける人口推計を行うこととします。

1つ目は、直近の人口動向が継続する「自然体ケース」です。

2つ目は、「成田空港の機能強化を踏まえたケース」です。成田空港の機能強化に伴う滑走路関連施設の整備は、令和10年度(2028年度)末までを目標として計画されており、それ以降の機能強化については、今後検討されていくこととなっています。千葉県は、周辺9市町※3に約9.2万人の人口押し上げ効果を目指すとしていることから、本推計では、滑走路関連施設の整備期間及びその後の数年間において、就労などによる若者の転入につながると考え、本市への人口押し上げ効果は、周辺9市町の人口構成や開発状況を勘案し、7,000～8,000人としました。

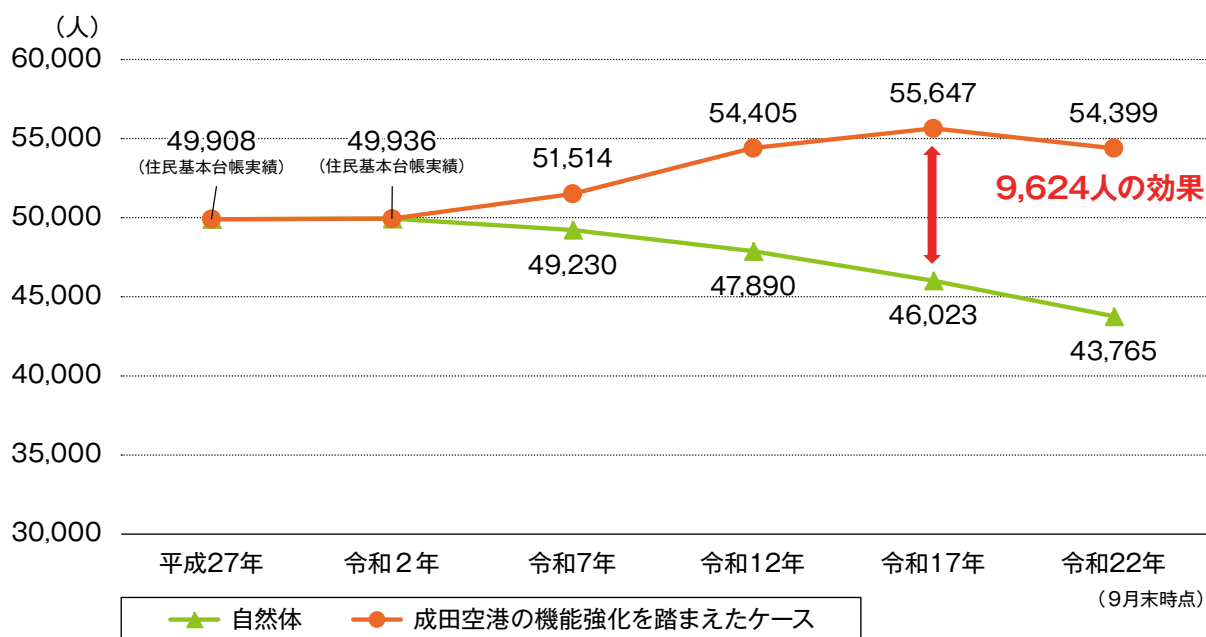
	基礎データ	推計の考え方	出生の仮定	人口移動の仮定
自然体ケース	住民基本台帳 (2016年から 2020年の各年 9月末実績)	直近の住民基本台帳の人口推移が継続する。	なし	なし
成田空港の機能強化を踏まえたケース		千葉県の試算による、成田空港の機能強化の本市への波及効果を考慮する。	なし	2022年～2032年において、毎年22歳～35歳で合計700人の転入増

※3 周辺9市町：成田市、富里市、香取市、山武市、栄町、神崎町、多古町、芝山町、横芝光町。

第3節 人口推計

前述の仮定を基に推計を行った結果が、次のとおりです。

		実 績		推 計			
		平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)
自然体ケース	総人口(人)	49,908	49,936	49,230	47,890	46,023	43,765
	高齢化率 ^{※4} (%)	23.8	28.2	30.0	30.5	31.4	33.4
成田空港の 機能強化を 踏まえたケース	総人口(人)	49,908	49,936	51,514	54,405	55,647	54,399
	高齢化率(%)	23.8	28.2	28.7	26.8	25.9	26.9



本市は、成田空港の機能拡充のたびに転入数が増加しており、今回進められる機能強化においても、影響があるものと考えられます。

特に近年、我が国の観光需要は飛躍的に高まっており、成田空港の機能強化によって本市の人の流れは大きく向上するものと考えられます。新型コロナウイルス感染症などの危機管理の必要性はあるものの、本市はこの好機を大いに活用することが求められます。

そのため、本計画に位置付ける施策を通じて、「成田空港の機能強化を踏まえたケース」を実現できるように、まちづくりに取り組むこととします。

※4 高齢化率：65歳以上人口が総人口に占める割合。



第3章

まちづくりのための 土地利用方針

本市の人口は、成田空港開港等に伴い増加してきましたが、少子高齢化が進行する中、横ばい傾向が続く、社会保障費の増加やインフラ施設の老朽化に伴う維持・更新費等の増加も見込まれ、これらに対応した効率的なまちづくりが求められています。

一方で、東関東自動車道酒々井インターチェンジの開設、首都圏中央連絡自動車道、一般国道464号北千葉道路などの広域道路整備が進む中、成田空港の更なる機能強化に向けた取組も進められ、空港の機能強化が地域全体に波及するための道路ネットワークの構築や空港周辺地域の一体性、周遊性を確保した広域的な視点からの活性化を図っていくことが重要となっています。

こうした状況の中、まちを持続し、更に発展させていくためには、誰もが住み続けたいと思える、暮らしやすい環境を整え、選ばれるまちづくりを進めていくことが必要です。

このため、日常生活の利便性を向上させる都市機能の充実や効率的で利便性の高い公共交通などの移動しやすい環境づくり、また、防災・防犯対策の強化など、誰もが安全で安心して暮らすことができる、コンパクトなまちづくりに向け、都市計画マスタープランで示す、地域が持つ特性を活かしたまちづくりとの整合を図り、以下の3つのゾーンを土地利用の基本方針として定めます。



日吉台地区の住宅街

集約型都市交流ゾーン

中心市街地を含むエリアとして、居住や都市機能の集約・強化により、暮らしやすさの向上を図るとともに、市内外から多くの人が集い、にぎわう交流空間としての機能強化を図るゾーンとします。

拠点型産業振興ゾーン

自然環境や農業との調和を図りつつ、成田空港や高速道路のインターチェンジなど広域交通網へのアクセス利便性を活かして産業振興を図るゾーンとします。

拠点型産業振興ゾーン

保全型農業振興ゾーン



十倉地区の広大な農地



酒々井インターチェンジ

保全型農業振興ゾーン

本市の基幹産業である農業や豊かな自然環境が保全され、集落地と調和するゾーンとします。

第1章
序論

第2章
基本構想

第3章
基本構想

第4章
基本構想

第1章
基本構想

第2章
基本構想

第3章
基本構想

第4章
基本構想

第1章
基本構想

第2章
基本構想

第3章
基本構想

資料



第4章

まちづくりの目標



第1節

まちづくりの目標（施策の大綱）

将来像を実現するため、8つの分野ごとの「令和13年度（2031年度）の本市が目指す未来の景色」を、まちづくりの目標（施策の大綱）として掲げます。

SDGsへの取組

SDGsの理念は、グローバル社会の中で大きく飛躍を目指す本市にとって重要な視点であり、国と共にSDGsの達成に向けた取組を加速していく必要があります。

このため、「経済」、「社会」、「環境」のバランスを図る統合的な取組であるSDGsの理念を取り入れ、関係部署相互が緊密な連携のもと、総合計画に基づく各施策や事務事業を通じて、関連する施策等を総合的かつ効果的に推進します。

（参考）SDGsとは

SDGsは、平成27年（2015年）9月の国連サミットにて、全会一致で採択されました。

持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標であり、2030年を年限とする17のゴール（目標）、169のターゲット、232の指標が定められています。開発途上国だけでなく先進国自身も取り組むべき目標であり、国も積極的に取り組んでいます。

SDGsは、世界共通の目指すべき姿に向けて各国で取り組まれているグローバルな考え方ですが、自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、中長期を見通した持続可能なまちづくりや地域活性化など、地方創生の政策と道筋を一つにするものです。

SDGsの考え方を取り入れることで、地域課題解決の加速化や、政策全体の最適化といった相乗効果が生まれ、地方創生の取組がより一層充実・深化することが期待されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





《まちづくりの将来像（未来の景色）》

心ひとつに 未来に向かって飛び立つ 躍動のとみさと

政策
1



福祉のまちの景色

地域でつながり守り合う
子どもから高齢者まで
全ての人が安心して暮らせる元気なまち

政策
2



都市基盤の景色

誰もが暮らしやすい
未来へとつむぎ輝くまち

政策
3



安心・安全なまちの景色

災害などのリスクから地域を守り
安心して暮らせる安全なまち

政策
4



産業のまちの景色

地域の良さを活かした
富里ならではの にぎわいのまち

政策
5



自然・生活環境の景色

豊かな自然に抱かれた
安心して暮らせるまち

政策
6



教育のまちの景色

ふるさとを愛し 心の豊かさと
未来を切り拓く ^{ひら}人づくりのまち

政策
7



連携と交流のまちの景色

多様な主体と連携・交流するまち

政策
8



行政経営の景色

運営から経営へ
歳入改革による持続可能なまち



政策 1 福祉のまちの景色

地域でつながり守り合う 子どもから高齢者まで 全ての人安心して暮らせる元気なまち

市民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、人や活動団体などのつながりを推進し、お互いに地域でふれあい、支え合いが実践できる環境づくりを進めます。

子どもを持ちたいと思う誰もが、安心して子どもを産み、子育てを楽しみと感じられるよう、結婚・妊娠・出産・子育てがしやすい環境づくりを一層強力に進めます。

障害者などが地域社会で自分らしく自立した生活を送れるよう、支援体制の充実に努めます。



健康づくり、生きがいつくり、保健・医療・介護体制及び地域のつながりの強化、地域包括ケアシステムの推進、感染症対策など、誰もが安心・安全・健康に暮らせる環境づくりを進めます。

生活困窮者、生活保護受給者の相談支援体制の充実に図り、自立支援を促進します。

複雑化、複合化する福祉ニーズに対しては、包括的な相談支援体制の充実に図るなど、福祉サービスの充実に努めるとともに、関係機関の連携を深め、地域福祉推進体制の強化を図ります。



政策 2 都市基盤の景色

誰もが暮らしやすい 未来へとつむぎ輝くまち

成田空港の更なる機能強化や広域交通ネットワークの整備促進など広域的なインフラ整備が進んでいます。本市への波及効果を活かすため、成田空港に隣接するポテンシャルを最大限活用しながら、地域活力による経済の活性化を図ります。

一方、高齢化の進行により、公共交通の利便性向上を求める市民の声が高まっており、持続可能なまちづくりのためには、市民の移動やまちの在り方の検討は欠かすことができません。

このため、最適かつ効果的な交通ネットワークの再構築と日常生活に必要な機能等を集約したコンパクトなまちづくりを総合的に捉え、生活利便の高いまちづくりに取り組みます。

また、ICTなどの情報通信技術の発達により、我が国ではSociety 5.0^{※5}への移行が進んでいることから、本市においても市民にとって利便性の高い技術の活用を推進するとともに、「新しい生活様式」による社会体系の変化への対応を進めます。

※5 Society5.0：ICT等により、都市や地方にかかわらず全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出す社会。





政策3 安心・安全なまちの景色

災害などのリスクから地域を守り 安心して暮らせる 安全なまち

我が国においては、毎年のように風水害や震災等の大規模災害が発生し、大きな被害を受けています。本市も令和元年房総半島台風等の際に大きな被害を受けました。そうした教訓から、大規模自然災害が発生した際にも機能不全に陥らない、迅速な復旧、復興が可能な富里市を作り上げるために策定した「富里市国土強靱化地域計画」に即して、千葉県、民間事業者、市民等、各主体^{※6}の参画・連携のもと、まちづくりを進めるものとします。

また、国際社会における脅威の多様化や感染症など、想定し得る様々な危機事案に備え、平時より危機に強い体制の整備等に努めるとともに、緊急事態の発生時において、迅速な対応が図れるよう危機管理の強化に努めます。

更に、近年増加している電話 de 詐欺^{※7}などの特殊詐欺や交通事故、消費者被害などから市民を守るため、相談窓口の充実や啓発活動の推進、警察など関係機関との連携の強化に努め、安心・安全な市民生活を守ります。



政策4 産業のまちの景色

地域の良さを活かした 富里ならではのにぎわいのまち

農業や商工業は地域に活力やにぎわいをもたらすものであり、更なる活力向上により、新たなイノベーションの創出につながります。そのため、各産業における担い手の減少などの課題を克服し、すいかをはじめとした農産物の生産力向上や、商工業における積極的な企業誘致活動に取り組みます。更に、それらを雇用創出につなげることで、人口増加や地域活性化を図ります。

また、新たな観光・交流拠点施設「末廣農場」から、本市の農・自然・歴史・文化の魅力を発信し、地域資源を活用したイベントの開催などによる地域への観光を促進します。



※6 主体：本計画では、意思決定や活動に関わる全ての利害関係者のこと。ステークホルダー。

※7 電話 de 詐欺：犯人が電話やハガキ等で親族や公共機関の職員等を名乗って被害者を信じ込ませ、現金やキャッシュカードをだまし取ったり、医療費の還付金を受けられるなどと言って ATM を操作させ、犯人の口座に送金させたりする犯罪の総称。



政策 5 自然・生活環境の景色

豊かな自然に抱かれた 安心して暮らせるまち

現在、持続可能な社会の発展のために「脱炭素社会」を目指す取組が必要となっています。本市は、成田空港に近接し、都心から約50キロメートルに位置しているながら、豊かな緑の中で暮らせることが魅力であり、利便性の高い郊外都市という特性を有していることから、本市の原風景である森林や谷津などの自然環境の保全や再生を推進します。

また、快適で穏やかな市民の暮らしを守るため、ごみの分別や3R活動[※]などの啓発に努めるとともに、適正なごみ処理を推進し、生活環境の維持管理に取り組みます。



政策 6 教育のまちの景色

ふるさとを愛し 心の豊かさと未来を切り拓く 人づくりのまち

グローバル化が進展していく社会で、「生きる力」をより一層育むために、子どもたちがふるさとへの愛着や誇りを持ち、言語や文化が異なる人々とのコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び・考え、自分を表現して社会参加できるよう、人材の育成に取り組みます。

家庭・学校・地域が連携し、青少年の健やかな成長を見守り、支える環境づくりを推進します。

更に、スポーツや文化・芸術などを通じて、全ての世代が豊かに自分らしく輝いていくために、生涯にわたり学び続け、その成果を社会に活かしていける生涯学習社会を目指します。

世界平和や国際協力に関する意識を高めるとともに、全ての人々がそれぞれの幸福を希求する権利を尊重する社会の実現に取り組みます。

※ 8 3R活動：リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の3つの英語の頭文字「R」をとって「3R」と呼んでおり、環境と経済が両立した循環型社会を形成していくことを目的とした活動のこと。





政策 7 連携と交流のまちの景色

多様な主体と連携・交流するまち

本市では、若者世代の人口流出により、少子高齢化が進んでおり、今後も様々な分野で担い手不足などの影響が懸念される中、人とのつながりや見守りといったコミュニティの再構築が求められています。

このため、協働のまちづくりの理念と基本原則を踏まえ、本市で活動する全ての人が、信頼と協力という「絆」を育み、民学産官^{※9}が連携したまちづくりを進めます。

本市の特徴である人口に占める外国人住民の割合の高さについては、長期で多様な業務を担う外国人材のニーズが拡大していることから増加傾向にあり、地域社会における生活面の課題も多くなっています。今後は、多様な国籍の方の増加が見込まれるため、国籍にかかわらず全ての人が安心して安全に暮らせる持続可能な社会の実現に向けて、多文化共生の地域づくりを進めます。

また、近年、都市部では、様々な形で郊外に生活や仕事の拠点を求める人が増加していることから、人と人とのつながりをつくり、交流人口や関係人口^{※10}を創出することにより、移住・定住の促進につなげていきます。



政策 8 行政経営の景色

運営から経営へ 歳入改革による持続可能なまち

企業誘致や民間企業との連携など、財源確保に向けた歳入改革と合わせ、各事業や公共施設の再点検も踏まえた歳出改革の着実な取組を進めるとともに、行政力の強化を図り、持続可能な行政経営に努めます。

また、市民が利用しやすい良質な行政サービスの提供に努めるとともに、行政事務の効率化を図ります。



※9 民学産官：市民（地域住民）、学校（学生、教育・研究機関）、産業界（産業、民間企業）、官公庁（国、地方自治体）の四者。

※10 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者のこと。関係人口の増加により、地域外の人材が地域づくりの担い手となることの波及効果が期待できるとされている。

